

八雲町議会議長
千 葉 隆 様

文教厚生常任委員会
委員長 赤 井 睦 美

委員会所管事務継続調査報告書（中間報告）

本委員会が、閉会中の継続調査として令和3年11月9日に決定を受けた所管事務調査につき会議規則第45条第2項の規定により下記のとおり報告いたします。

記

1 調査事件

- (1) 保健・福祉行政に関する調査
- (2) 八雲総合病院、熊石国保病院の運営に関する調査
- (3) 教育行政に関する調査
- (4) 上下水道事業・簡易水道事業の運営及び環境行政に関する調査

2 調査期間

令和3年11月9日から令和5年9月13日

3 調査の経過

本委員会は、閉会中の所管事務継続調査事項について、現状及び問題点を把握するため、所管課職員の出席をいただき、説明、報告及び資料の提出などを求め26回にわたり調査、検討を行ってきた。

特に、子育て支援施策については、町民に対するアンケートの実施や町に対する要望書の提出等、町民が真に必要とする支援を受けられることができるよう、委員会内で検討した。

病院関係については、新型コロナウイルスへの対応を通して、改めてその必要性が認識された自治体病院が「働きやすい病院」、「町民に親しまれる病院」となるよう、熊石国保病院の建替えに関して職員や地域住民との話し合いを行った。

また、教育分野においても昨今の少子化や町外への進学状況等も踏まえ、魅力のある学校作りの参考とするべく、先進地の視察を行った。

4 調査の結果

(1) 保健・福祉行政に関する調査

【子育てに関する調査】

- ・令和3年12月13日
出産お祝金交付事業及び大学・卒業お祝い交付事業について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年4月21日
出産お祝金交付事業及び大学・卒業お祝い交付事業について、担当課と協議を行った
- ・令和4年5月
町民に対し、「子育てに関するアンケート調査」を実施した
- ・令和4年10月20日
「出産お祝金事業」及び「入学・卒業祝い金事業」に関する意見書について協議を行った

【調査結果】

町からの子育て支援施策の提案を受け、委員会内で『町民が本当に必要としている支援とは何か』を改めて知る必要があるという結論に至ったことから、町民に対し「子育てに関するアンケート」を実施することとした。アンケートの回答に際し、町民の負担を少しでも減らすためにQRコードを用いた回答方法を採用したところ、子育て中の方269名、子育てを終えた方60名から意見をいただくことができた。オンラインによるアンケートは気軽に回答でき、集計もしやすいというメリットもあるため、調査内容や対象者等の条件により、積極的に活用できればと考える。

アンケートの結果として注目したのは病児保育についてで、「病児・病後児のための保育施設等があればいいと思うことはあるか？」との問いに対して「利用できれば良い」との回答が137人あった。以前同様の調査をしたところ1桁であった回答が、今回は3桁となっており、女性の社会進出、夫婦共働き、ひとり親家庭の増加などによるニーズの高さが反映される結果となった。

「子育てしにくいと感じることは？」の問いには「歩道のない通学路があり、危険を感じる」という回答が最多であり、これらのアンケート結果から、当委員会としては、「病児・病後児保育」について行政に要求していくこと、「危険な通学路」に関しては歩道の有無の他にも、冬場の除雪状況等についても実際に現地の調査を行いながら、安全に通れる通学路への変更も含めて教育委員会に検討を求めていく意向である。

また、ヤングケアラー条例について講師を招き、今金町、長万部町、せたな町の議会にも呼びかけ、八雲町を会場に研修会を行った。

町内にヤングケアラーが存在しているかどうか、町内のケアラーが孤立していないか、どのような支援を必要としているか等の調査も含め、潜在的なケアラーのために八雲町でも条例

を策定できるよう取り組むこととした。

(2) 八雲総合病院・熊石国保病院の運営に関する調査

【八雲総合病院に関する調査】

- ・令和4年2月17日
八雲総合病院透析部門から発生した新型コロナウイルス感染症の状況について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年2月17日
看護職員等処遇改善事業の実施について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年6月16日
令和3年度決算について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年10月20日
発熱外来運用状況について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年11月17日
看護職員等処遇改善事業について、担当課から経過報告を受け、協議を行った。
- ・令和5年6月13日
令和4年度決算について、担当課から説明を受け、協議を行った。

【調査結果】

前委員会に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況や経営状況に対しての報告を受けた。令和3年度、4年度については黒字経営との報告は受けているものの、新型コロナウイルス感染症に関する病床確保に対する補填の金額によるものが大きいとのことで、今後の経営状況に注視することが必要である。

また、依然として医師不足が深刻な状況にあることから、町民がより健康的に過ごせるよう、医師の確保、及び医療従事者の処遇改善に注力するよう要望した。

【熊石国保病院建替事業に関する調査】

- ・令和4年1月20日
熊石国保病院建替事業について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年2月17日
熊石国保病院建替事業について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年8月18日
熊石国保病院建替事業に係る補正予算（基本設計）について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和4年11月17日
熊石国保病院建替事業基本設計業務について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和5年2月16日

熊石国保病院建替事業基本設計業務について、担当課から経過報告を受け、協議を行った。

・令和5年5月18日

熊石国保病院建替事業基本設計業務について、担当課から経過報告を受け、協議を行った。

【調査結果】

熊石国保病院の建替えに関し、国保病院の職員や熊石地域住民への聞き取り調査を行い、町へ意向を伝えた。熊石地域住民の要望する45床とはならなかったものの、当初町が提案していた診療所化は免れ、30床の病床を確保するに至った。建設場所については、当初は現病院に隣接する予定であったが、工事の騒音や送迎バス利用の計画を拡充するとして、養護老人ホーム隣の町有地に建てることに変更された。行政側から総工事費や建設年月の予定等について報告を受けているが、今後も状況を都度確認しながら、地域住民が安心して利用できる病院となるよう、要望を行う。

(3) 教育行政に関する調査

【学校教育分野に関する調査】

・令和3年11月25日

八雲中学校大規模（長寿命化）改修事業について、担当課から説明を受け、協議を行った。

・令和3年11月25日

小中学校の保健室へのエアコン設置について、担当課から説明を受け、協議を行った。

・令和4年1月20日

小中学校の長期休業期間の変更について、担当課から説明を受け、協議を行った。

・令和4年5月19日

八雲中学校大規模（長寿命化）改修事業について、担当課から経過報告を受け、協議を行った。

・令和4年12月12日

「八雲町立八雲小学校少人数学級事業」について、担当課から説明を受け、協議を行った。

・令和5年3月7日

「八雲町立八雲小学校少人数学級事業」について、担当課から経過報告を受け、協議を行った。

・令和5年8月28日～8月29日

今後の八雲町の学校教育の在り方について参考とすることを目的に視察研修

を行った。

【調査結果】

近年の地球温暖化の影響で、八雲町においても夏季の気温が30℃を超える真夏日が多く観測されており、小中学生の身体への負荷が危惧されることから、長期休業期間の変更だけでは対策として不足しているとして、町内の小中学校の各教室への早期エアコン取付について要望書を提出することとした。

視察研修に関しては、別紙「文教厚生常任委員会視察研修報告書」を参照

【その他教育に関する調査】

- ・令和5年5月18日
アイヌ文化財保存活用事業について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和5年6月7日
町内団体より提出された「文化ホール建設請願書」について、説明員から説明を受け、協議を行った。
- ・令和5年6月13日
提出された「文化ホール建設請願書」について、提出団体と懇談を行ったのち、採択について審査を行った。

【調査結果】

アイヌ文化財保存活用事業について、国からの交付金を活用し、八雲町のアイヌ文化財を保護し、町民がアイヌ文化について学ぶ機会を広く提供する目的で、町外業者に石碑の保護やウェブページ、リーフレットの作成を委託する旨、報告を受けた。

また、八雲町文化団体連合会より「文化ホール建設請願書」が提出され、当委員会が付託を受けた。文化団体連合会と懇談し、慎重に審査した結果、採択を決定し、令和5年7月の第4回臨時会で採択された。

今後は、文化ホールを新設するのか、町民センターやシルバープラザ等の既存の建物を今よりも使い勝手を良くして利用するかなど、行政とともに検討していく。

(4) 上下水道事業・簡易水道事業の運営及び環境行政に関する調査

【昭和湯休業中の送迎バス運行について】

- ・令和5年1月13日
昭和湯休業中の八雲遊楽亭への送迎バス運行について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和5年2月16日
昭和湯休業中の八雲遊楽亭への送迎バス運行について、担当課から説明を受け、協議を行った。
- ・令和5年7月20日

公衆浴場対策事業について、担当課から説明を受け、協議を行った。

【調査結果】

八雲遊楽亭へのバス運行（昭和湯休業中のため）が、町営住宅の「風呂なし」の状況が解消されたことを理由に、令和5年3月中止される旨、報告を受けた。風呂があったとしても、高齢で浴槽の掃除が困難である人もいることから、委員会を中心に町に対し遊楽亭へのバス送迎を継続するよう要求し、今後も継続することとなった。

2023年度

文教厚生常任委員会視察研修報告書



八雲町文教厚生常任委員

文教厚生常任委員会視察研修 日程表

1. 視察研修日程

8月28日（月）～8月29日（火）

○8月28日（月）

6：15 八雲町役場 発

9：30 まおい学びのさと小学校【10：00～11：30】

12：00 昼食

15：00 千歳市 着

○8月29日（火）

9：00 千歳市 発

10：00 安平町早来学園【10：00～11：30】

12：00 昼食

16：00 八雲町役場 着

2. 視察研修先

○まおい学びのさと小学校（長沼町）

[視察調査内容]

令和5年4月に開校したばかりの私立の小学校。NPO 法人が運営している。教科書に書いてあることを覚えるのではなく、「プロジェクト」単位の体験学習で、作ったり調べたり、実際に体験しながら学ぶことを中心としている。テストや宿題による評価をせず、基礎学習は生活の中から題材を見つけ、体験的に学ぶこととしている同校の新しい教育方法を視察調査し、八雲町の学校教育等の参考とする。

○安平町立早来学園（安平町）

[視察調査内容]

令和5年4月に開校したばかりの義務教育学校。平成30年の胆振東部地震での校舎の被災を機に、他の老朽化が進む学校も含めて統廃合し、コストを抑えることと、小学校と中学校のギャップをなくす狙いから設立した。学校の一部（図書館や会議室等）を一般開放するといった特徴的な取り組みもある。全国各地で増えている義務教育学校のメリット等を視察調査し、将来の八雲町の学校教育を見据える上での参考とする。

《まおい学びのさと小学校》

○質疑応答

Q. 7月に実施された『まおいフェス』の内容がホームページで紹介されていたが、この実施に至るまでの苦労話やエピソード、子ども達の心の葛藤や成長ぶり等はいかがか。

A. 演劇プロジェクトが自分たちで脚本を書き、配役も決めミュージカル『アリ？ババ』を行った。他のプロジェクトでは、ポップコーンやかき氷の販売等を行った。ミュージカルは、初め全然練習が進まず、本番に間に合うのか心配だったけれど、やる気になったとたん完成し、本番はみんなで感動した。

暑かったので、かき氷等の売り上げが良く、その収益をどのように使うかをプロジェクトごとに相談したら、「水族館に行く」「動物園に行く」「海岸でバーベキュー」「今回は使わず貯金」という結果になり、それぞれ実行できた。やる気になったときの子ども達の能力はすごいと改めて実感。

Q. 授業参観や保護者懇談会など、保護者とのかかわりはあるか。

A. 参観日、懇談会は設けていないが事前に連絡をもらい、いつでも受け入れている。

7月後半に保護者会主催で、各自テント持参のキャンプを行ったら、とても盛り上がり、子ども達も朝まで走り回っていたり、保護者同士の交流も盛り上がっていた。その後、おやじの会ができ、お父さん30人位で札幌のカラオケで、盛り上がっていたという話も聞いている。

Q. 児童会、委員会活動はあるか？

A. 毎週1回全校ミーティングを行っているので、その進行のためのミーティング委員会がある。子ども達が議題箱に投書した中からテーマを決め、会議の進行をする委員会。

Q. もぐもぐタイムは、各自自由な物を条件なく持参しているか。

A. 休憩時間のもぐもぐタイムは、家からおやつを持ってくることになっている。トーキビやカルシウムせんべいなど、それぞれ考えている家庭もある。

Q. どのような経緯で長沼町になったのか？札幌や千歳に近い関係から？

A. 4年前校舎探しをしている時に、偶然、長沼町で5校の小学校が1校に統合するという話を聞き、無償貸与してもらうことになった。札幌から通っている生徒が半分以上。

スクールバスは、新さっぽろと千歳から出ている。57人中28人か29人は移住して入学している。そのうち11人は道外、あとは函館、稚内、苫小牧、札幌西区など。4～5件は長沼に家を建てたが、空き家が少なく栗山等の近隣に住んでいる人もいる。

教員住宅が6件分空いているので、リフォームして貸し出せるよう、町に譲渡か貸与をしてもらうようお願いしている。

Q. 私立ということで、公立に比べると保護者負担が大きいため『児童は集まるのかな?』と心配であったが、そうした不安はなかったか。

A. 義務教育にお金をかける習慣は北海道にはなかったが、札幌中心に説明会を2～3年前から開催し、反応が良かったので大丈夫だと思った。道庁の認可でも、集まらなければ認可できないと言われ、3年かかった。60人集まってほしかったけど結果55人で経営的には大丈夫。不安もあったけれど、自信もあった。

Q. 理想の教育方針だが、日本で実現するには難しい点が多いと思う。開校までに最も大変だったことはどのような事か。

A. 同じ教育方針で行っている学校が西日本には10校ある。認可を得ることが一番大変。

Q. 他の地域でやってみたいという声があったら、一番にどんなアドバイスをするか。

A. すでに各地から声が上がっている。お金と認可が一番大変。

Q. 今後中学校も考えているとのことだが、中学校ではどのような展開を考えているか。

A. 中学校は隣に土地が空いているので、2年半後に設立予定。

Q. 移住につながっているのはとても良いことだと思うが、今後、宿舎等の考えはあるか。

A. 移住はかなり大変なので、宿舎、寮が、という声もあるが、寮はお金がかかる上に、人材確保も難しい。将来的には検討中。

Q. 教室の掃除はどうしているか。

A. 毎朝、9:00～9:10に簡単に片づけをする。子ども達は、活動は好きだけど片付けは嫌いな子が多い。1週間に一度、金曜日の特別活動で整理する。

Q. 最近できたルールには、どのようなものがあるか。

A. 言葉遣いも含めて、暴力的な行為はしない。木曜日の全校ミーティングで話し合うが、初めは話し合いにならなかった。2つに分かれて4～5回行い、それから全体で行った。

4月の2週間は、先生に聞いてもらうという形だったが、3日目からはみんなに向かって話せるようになった。6月に入り、やっと全校ミーティングの形ができてきた。1学期初めは喧嘩が多く、誰かが泣いていた。2学期に入ると喧嘩がほとんどなくなった。「目標の楽しい学校」から離れない。やりすぎてケガにつながる時は、大人から声をかける。最近はふざけの程度もわかってきている。ミーティングで意見を出し合うことで、お互いに学んでいく。昔のように、抑え込むクラスは陰で問題が出てくる。

Q. 登下校管理はどのようにしているか？

A. ピピッとスクールを導入。入力によって、子どもの状態がすべて把握でき、登下校もわかる。

Q. スタッフは、コミュニケーション力、観察力、洞察力を持たなければならない。人材確保と育成は、どのように行ったのか。

A. スタッフが大事。ここのスタッフは非常に優秀。給与は公立の2/3と低く、金額は全員一律。準備期間に体験会を行ったが、みんな無償で手伝ってくれた。関東、東北、北海道で初めてということもあり、そこにやりがいを感じてくれている。

子ども達の「やりたい！」に応えるために知見が必要。毎日打ち合わせをしている。それが研修なので、研修部はない。みんな完璧ではないが、大人自身も成長している。

Q. 道教委の認可による縛りはあるか。

A. 私立なので担当は道教委ではなく、学事課。手続きに必要な書類提出や、学習指導要領に従っている。教科の横断も抑えていて、6年間でクリアするようになっている。休みや給与関係はきちんと契約し、理事会に報告している。

Q. 教頭は一番忙しいとよく聞くが、コロナの対応もものすごく忙しく、現場は疲弊していたのでは。

A. 教頭はとても大変。うちには教頭はいないので、事務長が対応。道教委や学事課のメールはほぼスルー。教務、総務、保険安全等、全部の生徒を皆が見ているのでよく知っている。余計な仕事を削って、子ども達に向き合うことが本来の姿。宿題は出さない。成績表も廃止。

Q. PTAはあるのか。

A. PTAはないが、懇談はやる。NPOの学校作り中に保護者が入っていて、NPOの保護者会がある。そのため保護者と協力・理解ができていて学校の応援団になっている。学校法人とNPO両方で支えている。NPOは長沼地域の活性化が大きな目的なので、物件の紹介を行う移住グループ、ご飯グループ、草刈りなどの環境整備グループがある。週に1度、ご飯グループが地元の食材で『まおいご飯』を作り、1食350円で提供してくれている。

小学校は成績表を付けなくても良いことになっている。教科の中身が、ミニマムからマキシマムになっているが、参考的に使っている。

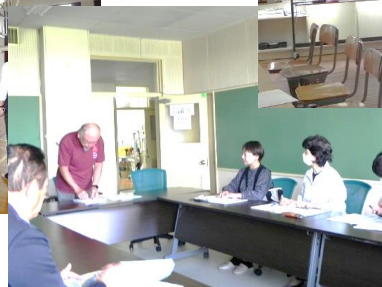
定員120人の個性を把握するため、これ以上大きくはしたくないと思っている。小規模で人間関係を作り、自分たちで切り開いていく子になってほしい。体験を通じて知識も生きる。自己肯定感が低い子が多いので、お互いを認め合える、自分も認めてもらえる。モチベーションがあれば、知識が足りなくてもリカバーできる。モチベーションは一度下がるとなかなか回復できない。人との距離感、人間関係を学ぶ。「自立は、一人でやるのではなく、苦手なところを誰にどのように頼るかをわかっていることが自立」



休憩時間にゲームもできます。制限時間もしっかりと守っていました。自己管理は大切ですね！



プロジェクトチームが自分たちで作った滑り台。大人が乗っても大丈夫！頑丈にできていました。ものづくりプロジェクトのほか、演劇、料理のプロジェクトがあります。この時はニワトリ小屋を作成中でした。



【委員のアンケートより】

Q1 今回の視察で感心したことは？

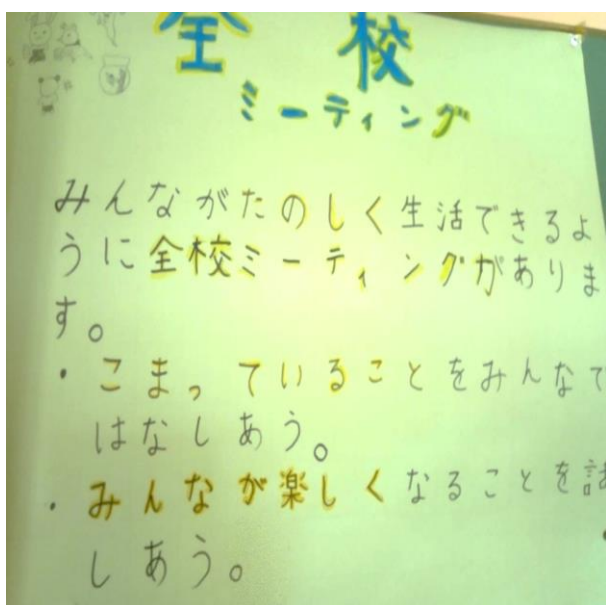
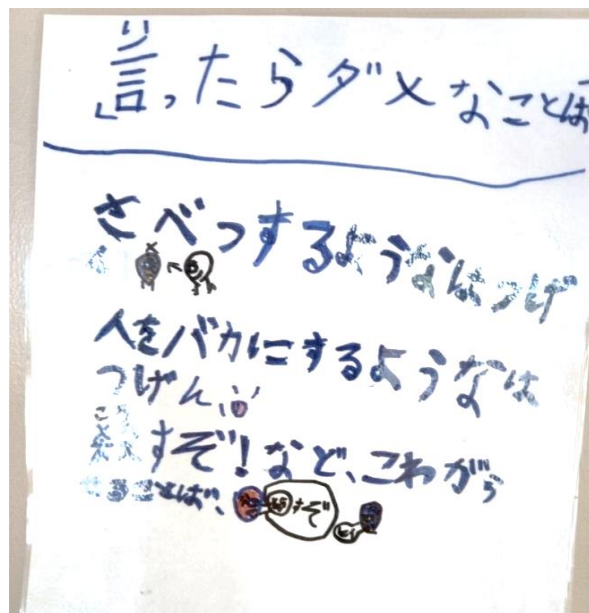
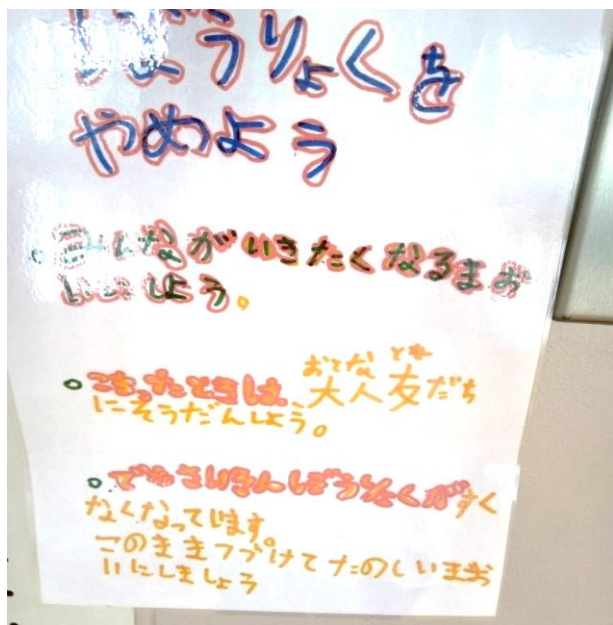
- 廊下の生き物たちの写真や、理科室に置かれているいつでも自由に使ってよさそうな顕微鏡などを見て、自分が学校を好きだったことを思い出し嬉しくなった。
- 研修が、学校を見に来るというテーマに絞られてよかった。研修に来てよかったと思った。
- 校長先生の情熱が、これからどのような道をつけていくのか楽しみ。
- 理念を実践していること。
- この学校で体験していることは、本来地域のコミュニティや子どもたちの世界で学ぶべきことだと感じた。それだけ、そのような関係が築ける環境がないということなのか。
でも「体験」は確かに必要な事なので、放課後に「遊びの学校」みたいなものがあれば良いと感じた。
- 教科書は参考書としての利用で、大切なのは体験ということがわかる内容だった。
- 好奇心あふれる子どもたちを中心とした教育。色々な体験をしながら自分の意思の力を養い、生き生きとした子ども達の可能性を伸ばしていく教育。
- 子どもたちにとっては理想的な教育だと思った。まだ開校して間もなく、1年生はもちろん、2～4年生も初めての学校、今までにない教育方針で、慣れるまでには時間がかかると思うが、今の4年生が6年生になったときがとても楽しみ。自分たちで決めたルールも楽しかったし、全員が守れる日が来るのも楽しみ。
- 子どもの自主性を重んじ、大人は子どもが気付くまで、発見するまでじっと待っている。忍耐強い大人に見守られている子どもは幸せ。今は上級生がまだ4年生だが、彼らが6年生や中学生になるころにまた様子を見てみたい。きっと大きく逞しく成長していることと思う。

Q2. 八雲町でも是非、取り入れたいと思った事は？

- 自分たちでルールを作る活動を取り入れられたら、それが大きな学びになると思う。してはいけないことプラス、どんどんしていこうという前向きなルールも合わせて考えていける子ども達。いいな！と思う。
- 生徒中心主義。
- 大人が見守る体験の場を、学校とは違った形で、退職後の教員等で運営できれば面白いと思う。
- 総合学習で、普通の公立学校でも取り入れることは可能なことだが、いろんな取り組みの一つとして、参考なることはないか探してほしい。
- 子ども達の好奇心。
- 出来なかったことができるようになる、そうした学びの場はとても楽しい！ということを是非、子ども達に学校で実感してもらいたい。今の環境の中でも、出来る方法をどんどん工夫してほしい。そのためにも、子ども達はもちろん、先生たちがもっともっと開放されなければいけないと思

う。そこは、学校だけではなく地域の応援が必要。

- ルールを自分たちで決めて、自分たちで守るよう、お互いに努力する姿勢は、我が町でも取り入れられることだと思う。大人の見守る姿勢も是非、学んでほしいと思う。



校則は、子ども達で話し合いながら、全校ミーティングで決めていきます。

4月はミーティングが成立しないこともありましたが、今は落ち着いて、話し合いの仕組みも理解し、ミーティングらしくなってきました。

4年生が最上級生ということで、なかなか大変なところもあると思いますが、4年生に聞いてみると、自分たちがしっかりしなければならぬという思いが強く、とても頼もしかったです。

自分達が6年生になったときに、中学校ができていなければ困ると話していて、この学校が子ども達にとっていかに大切な学校かが伝わってきました。

《安平町早来学園》

ピンチをチャンスに!

胆振東部地震の発生により、早来中学校は大きな被害。

『早来中学校の校舎が使えない!』⇩

- ① 同じ場所に改修か建て替え? ……地盤に大きな被害が出た
- ② 別な場所に建てる? ……市街地に広い町有地がない
- ③ 小学校隣に建てる? ……小学校グラウンドがなくなる



小学校隣地を取得し、老朽化する早来小学校と一体校舎新築

早来中学校×早来小学校 = 義務教育学校

強力なチーム体制

- ・教育環境計画の専門家集団
- ・学校教育と社会教育の融合
- ・アトリエ系の建築設計
- ・ウルトラテクノジスト集団

教育環境研究所

アトリエブック

チームラボ

安平町の未来（復興）は教育が作る。教育で作る。

- ◎ 地域と学校を分けない→自分が<世界>と出会う場所 学校を通して「夢」「本物」「地域」「社会」と出会う。
- ◎ 地域や社会課題をテーマにした学習の実現を目指す!→子ども主体・子どもの社会参画を軸とした学校

【新しい学校 計画目標】 ポイント：地域とのつながりの重要性

1. 多様性の中で豊かな社会性を育てる環境作り
2. 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める環境作り
3. 子どもが主役の学びの環境作り
4. 9年間の確かな成長を支える環境作り
5. 心地の良い、快適に過ごせる環境作り
6. まちのコミュニティセンターとなる学校作り
7. 「チーム学校・チーム安平」ー 地域の子どもは地域で育てる
8. 安平町の未来を拓く学校作り

ポイント：地域とのつながりの重要性 ・ 単なる復旧ではない

【地域プロジェクトマネージャー（LPM）の導入】

- ・ 地方公共団体が重要プロジェクトを実施する際には、外部専門人材、地域、行政、民間などが連携して取り組むことが不可欠
- ・ しかし、そうした関係者間を橋渡ししつつプロジェクトをマネジメント『ブリッジ人材』が不足。
- ・ そこで、市町村がそうした人材を『地域プロジェクトマネージャー（LPM）』として任用する制度を総務省が創設。
- ・ 国では2021年度から事業開始

【総合計画重要プロジェクト設定の背景】

- ・ 総合計画基本構想設計に当たり、住民アンケート調査やSWOT分析を実施
- ・ 高齢層からは「公共交通や医療」等が低評価、20～40歳代「子育て・教育」に強い関心判明
- ・ 解決には、限りある地域資源を戦略的・重点的に投入することが必要と判断
- ・ 増え行く高齢層を支えるためには若い年齢層の力が不可欠
- ・ そこで、最重要プロジェクト（最重要課題）を『子育て・教育』として総合計画に明確に置つけた。

【プロジェクト目的】

・子育て・教育核とした地域活性化

*働き方改革で先生の業務の余白を作り、「やりたい！」が実践できる働き甲斐がある
安平へ

*子育て教育の主体者として生き活きと子ども達を支える人々が溢れる安平へ

*子育て・教育分野でビジネスチャンスを掴むことが出来る安平へ

*こうした人々を支援し、信頼される町職員が集う安平へ

・あびら教育プランをきっかけとした『社会に開かれた教育課程』の実現

*地域に密着した、地域なくして成し得ない安平らしさへ

*認知スキルのみならず、非認知スキルに着眼する安平らしさへ

*自分の世界を広げるための機会を提供してくれる安平らしさへ

これらの活動が、『生涯学習・生涯教育の推進と実践』『交流（関係）人口、定

住人口の増加』をもたらすものである。

○質疑応答

Q. 現在の生徒数は？

A. 7月末現在で308人

Q. 住民の皆さんの利用方法は？

A. 図書館の利用、介護予防教室、お裁縫教室、映画鑑賞会、赤ちゃん教室、町のリビングであびらぼ・教育プラン、運動・文化地域開放

Q. 学校管理職の体制は？

A. 4名配置可能だが、校長・副校長・教頭を配置し、1名は一般教諭として確保。

Q. 全ての教員が全学年を持てる仕組みか？

A. 免許があれば可能。北海道に限らず小中両方の免許を持つ教諭の数はまだ少ない。義務教育学校の基本は両方の免許を持ったものだが、当面の間といった表現で片方の免許を持った教諭が配置されているため、現状では不可能。

Q. 全学年で担任が全教科を教えているのか？

A. 後期課程（中学校）教科センター方式をとっていて、4年生以上が教科担任。

Q. 修学旅行、卒業式等の行事は？

A. 運動会・体育祭はスポーツフェスティバル、学芸会・学校祭は学校祭としてすべて9学年で実施。卒業式は1回。入学式も1回。開校後『児童生徒会』として統合。

Q. 地域に開かれた学校という発想はどこから？

A. 平成25年から学校運営協議会などの活動を行っており、特に新たに考えたといったものではないが、震災・コロナ対策を経験し、そのつながりの重要性は大きいと感じている。更に、地域学校協働本部の体制作りを考えていたので、学校の敷居の高さを下げることも考えた。

Q. 地域開放の教室のメリット等は？

A. 学校だけの使用では見られない町の活動が活性化して活気生まれる。学校の活動だけでは教室の稼働率は上がり、そこから得られる学習も生まれる。例として、お裁縫教室などは家庭科との授業と結びつく興味が得られたり、趣味から生まれる世界もあると思う。そのような方々を講師として発掘する利点もあると考える。

Q. 学校給食の支給方法は？

A. 給食センターが町内の町立3校・公私連携認定こども園2園・道立高校1校（希望者のみ）へ配送。

Q. この校舎は災害時の避難所に指定されている？

A. 避難所になっている。大アリーナ・中アリーナそれぞれ避難所としての機能を考え、現在これまでの公民館を改築して合宿所20部屋程度の施設にして、大ホールを運動場にしてメインの避難所に適した整備を行った。

Q. 校舎を一体化したことで、子ども達に変化は見られますか？

A. 特に大きな変化はない。ただ、9年間もいるので、飽きないように教室の形や備品などを変える等々色々と工夫をしている。

Q. 農作業やお祭りなど、今後の展開としてはどのようなことをお考えですか？

A. 学習指導要領に基づいて学習方法の原点に戻って活動を実施。農業体験などは、総合的な学習の時間としてしっかりと取り組める考え方に組みなおし、イベント性はなくす方向で進めている。お祭り等は、部活動の活動以外は学校行事としての参加はない。

Q. 図書館を学校に移し、町の図書館司書を学校に置くという発想が素晴らしい。

A. 司書がいることで、本を手にする機会も増え、学校の中にも様々な工夫がみられる。

Q. 行事はどのような形で行っているか。

A. 一般の授業に重点を置くために、簡略化して行っている。運動会はスポーツフェスティバルとして、リレーは行うけれど他の競争はせず、みんなが楽しめるような工夫をしている。学芸会は、劇など練習の必要な物はなく、総合的な学習として学習発表形式をとり、それを安平チャンネルで放映している。

安平教育プランを作成し、教育力が弱くなっているところの底上げを図るため、教育魅力化コーディネーターを活用。そうした職員採用も民間に委託している。



秘密基地のようなミニ図書コーナーへの入り口。大人でもワクワクしました！



廊下に何か所もある休憩スペース。テストもここで受けても良いのです！



【委員のアンケートより】

Q1 今回の視察で感心したことは？

- 学校という枠にとらわれることなく、地域や社会と繋がりながら、豊かな人間関係を築けるところ。
- 震災というピンチをチャンスに変えた行動力と粘り強さに感服した。図書室が充実しているのが魅力的。この早来学園からどのような人材が生まれてくるのか、将来が楽しみ。中学校時代の恩師が勤めていることにもビックリ！会って話ができたことにも感謝。
- 学校の環境を考え直す。令和の次の時代を見据えて作る。
- とても上手にDXを活用している。チームラボ等、民間をうまく使っている。教育委員会がとてもよく機能しているというか、本来の仕事をしている印象が強い。
- 災害が起きたことをきっかけに、たくさんの気づきがあって、一気に前進したようだが、経験により発揮した結果、子ども達だけでなく地域とのつながりもできることにつながった素晴らしい取り組みだと感じた。地域理解への努力、すごいな…頑張ったのだなど、行政に対しても思った。
- とにかく立派で快適、通うことが楽しみになる学校。職員室も先生たちの席が固定されておらず、打ち合わせや生徒との話し合いがしやすくなっていた。使う人の声が随所に活かされていたと感じた。
- もともと学社融合している地域と聞いていたが、民間の力を最大限に活用し、お互いの良いところが生かされていることが素晴らしいと思うと同時に、とてもうらやましかった。教育次長のインタビュー記事にもあったが、学校建設に当たって、使う側の目線を大切に「地域に愛される学校にしたい」という考え方、更に「行政は予算をどう削減できるかばかり考えがちだが、使う人の意見から生まれる価値の方が何倍もあると思い、否定しそうになった時こそ、使う人が喜ぶものを取り入れようと心がけた」という素晴らしい学校。この思いはずっと続いてほしいと強く思った。

Q2. 八雲町でも是非、取り入れたいと思った事は？

- 小中一貫校として地域と一体となり、支援する環境作り。
- 時間がかかるかもしれないが、今行われている学校開放プラス、図書館や会議室など地域住民が利用できるようになるという。
- 最適化された教育環境。
- 今後、教育施設を建てる時には、リングローなど民間も入れてみるのも面白い。我が町の教育委員会も、ここに視察に来るべき。
- 早来学園の行政が、どのような思いでこのことを実現できたか等知ってほしい。良いことを取り入れる方向で考えてほしい。
- 地域全体で学校を支え応援することは、八雲町でも十分出来ることだと思うが、そのた

めにも今学校で何が行われていて、子ども達がどのように過ごしているのか等、地域の人たちに伝わるのが大切。学芸会等が各家庭のテレビで見られるということもとても良いと思う、子ども姿を地域の人たちも見られる工夫ができないものか。

○ 民間の力をどんどん取り入れている所は、八雲町も積極的に行ってほしいと思う。

図書室を見るとわかるように、やはり専門家が入ることであのように素晴らしい図書室になったと思うので、八雲町も専門家の声をどんどん取り入れてほしいと思う。

「学校とまちの境界線をなくすことで、地域の人に見守られながら子どもが安心して学べる環境を作った」と教育次長はおっしゃっていたが、是非、八雲町もそうしましょう！

○ 安平町は以前から学社融合を実践しているだけあって、単なるコミュニティスクールではなく、完璧に地域の学校になっている所が素晴らしく、今後目指すべきことだと思う。

安平町は「子育て・教育のまち」をうたっているが、八雲町だってこれから十分に取り組むことができる。まず、地域の子子ども達を大切に育てるべき。ソフト面が充実するとハード面にも生かされてくると思うし、民間の力を活用することでもっと幅が広がるということも実践していきたい。



これは図書室の左側と右側です。生徒はもちろん、町民も自分の好きなスタイルで読書を楽しんだり、勉強や調べ物ができるようになっています。このゆったり感と開放感は何とも言えず羨ましい限りです。



文教厚生常任委員会

委員長	赤井睦美
副委員長	佐藤智子
委員	黒島竹満
〃	斎藤實
〃	大久保建一
〃	関口正博
〃	能登谷正人
〃	倉地清子